

# ファッションビジネス学会

## 総 会 資 料

2022・5



The Japan Society for  
Fashion Business

# 2022年度 ファッションビジネス学会 定期総会

## 2022年度 ファッションビジネス学会定期総会によせて

会長 濱田 勝宏

会員の皆様方にはお変わりなくお過ごしのことと拝察いたします。

本年度の定期総会は、DX（デジタルトランスフォーメーション）という時代の趨勢を捉え、また、学会運営のニューノーマルとしてオンラインのリモート形式において開催することといたしました。昨年度に引き続きまして議論の場をオンラインに切り替えましたこと、ご了承いただければ幸いです。

今回の定期総会では、例年の議案の他、昨年度に承認されました「活性化5ヵ年計画」における初年度の結果についてご報告をさせていただきます。皆様方には活性化において新たに組織されました委員会および総合運営会議における議を経て、さらに2年目に遂行していかなければならない活動についてお諮りしていく所存でございます。ご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

活性化に伴いまして新たに掲げましたビジョンである「ファッションとファッションビジネスで心豊かな未来を創造」において、コロナ禍の鎮静化はもとより、なによりも世界の平和を祈願いたします。

会員はもとより関係者の皆様方のご健勝を心よりお祈り申し上げ、それとともに学会活動がより一層活発なものとなりますよう、ご協力をお願い申し上げます。

<b>定期総会</b>	総会 第1号議案 2021年度事業報告と決算承認の件 第2号議案 2022年度事業計画と予算承認の件 第3号議案 2021年度活性化活動結果と2022年度活性化計画の件 第4号議案 運営規約の一部改正について 第5号議案 役員並びに名誉会員名簿
<b>特別講演会</b>	<p style="text-align: center;">— 特別講演 —</p> <p style="text-align: center;">「ファッションビジネスおよびファッション教育研究における DXの重要性についての考察」</p> <p style="text-align: center;">講 師：株式会社FMB 代表取締役 市川 雄司 氏</p>

# ファッションビジネス学会 定期総会

## 第1号議案

### 2021年度 事業報告と決算承認の件

(2021年4月1日～2022年3月31日)

## 事業報告

### 1 2021年度定期総会と特別講演会

---

2021年5月15日(土)に新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、オンラインリモートにおいて開催され、各議案がそれぞれ承認された。

- 第1号議案 2020年度事業報告及び決算承認の件
- 第2号議案 2021年度事業計画及び予算承認の件
- 第3号議案 その他

総会終了後、会員および関係者、学生を含め、約130名の参加のもとにオンラインリモートにおける特別講演会が行われた。学会及び業界の今後を示唆する大変貴重な講演会となった。

特別講演 「コロナ後のニューノーマルの考察」  
講 師 独立研究者、作家、パブリックスピーカー  
山口 周氏

### 2 2021年度全国大会

---

2021年11月20日(土)に本部主催においてオンラインリモートにて開催された。「2030FBに向けてのスタートアップ ～サステナビリティのゆくえ～」をテーマとしたシンポジウムから、口頭研究発表・ポスタープレゼンテーションまで、オンラインリモートの効果もあって盛会のうちに終了した。

本部研究発表 口頭発表16報 ポスタープレゼンテーション3報

### 3 論文誌発行

---

Vol. 26を2021年4月初旬に発行した。

### 4 研究部会活動 \*順不同

---

・リファッション研究部会 部会長／木田 豊 部会員15名

## 1. 「フォーラム 0704 2021」

当研究部会では「7月4日」を「おなおしの日」として「おなおしの日シンポジウム」を実施継続してきた。1昨年11回目を迎えるにあたり、より双方向の情報交換を目指すために活動名をフォーラムに変えた。今年度は6名の準備委員を選定し7月4日(土)の実施予定であったが新型コロナウイルス蔓延の影響を受け2年連続の中止となった。

## 2. SDGsウラッチ

SDGs活動が産官学民全般にブーム的に盛んになり、市場に活動事例は数多く見受けられたがブームにありがちないわゆる「SDGsウラッシュ」が散見された。部会員は啓発姿勢を慎重にするための情報交換を心がけた。

## 3. 外部活動との連携

本研究部会も参画して開催した「リクチュール塾」の修了者が「子供リクチュールくらぶ」として活動し中央区環境保全ネットワークに参加した。この行事もリアルな展示会方式は出来なかったが動画を作成して参加2021年10月16日から2022年3月末までYouTubeで公開した。この活動に本部会員4名が参加した。尚動画アドレスは以下のとおり。

<https://youtube.com/watch?v=JmkG2A8wa3s&feature=share>

## 4. 反省

コロナ禍の影響は続くと予想されるので部会運営の方法にZOOMなどの活用を盛んにして行きたい。

### ・服装社会学研究部会 部会長／田中 里尚

2021年度の服装社会学研究部会は、リソースセンターのアーカイブの紹介を兼ねた内容として企画していたが、オミクロン株の流行が爆発的であったため三密を避け、延期措置とした。その内容については2022年度上半期に実施を検討している。

### ・アパレル工学研究部会 部会長／未定

#### <2021年度実績>

コロナウイルスの蔓延により、2021年度のアパレル工学分科会は休止状態であった。

#### <予定>

2022年度は以下で開催する予定としていた。

テーマ：3D CADの方向性を探る。

アパレルの企画・設計・製造部分で3D CADが急速に浸透してきている。また教育機関でも新規カリキュラム・新規科の増設などの動きが出ている。

アパレルとしてどの部分まで参入するべきか、また他業界へ影響する部分を探る予定である。

### ・ファッション産業史研究部会 部会長／小山田 道弥 部会員／36人

2015年11月に「ファッション産業年表」を発表し、2017年3月に第108回研究会を開催したのを最後に、休眠状態を続けている。

本研究部会は、2004年4月に発足。研究会を毎年10～11回の頻度で開催し続け、14年

12月に第100回を迎えた。その第100回を記念して作成したのが、前記「ファッション産業年表」である。同年表は2014年で終わっていて、15～20年が未記載であり、また1945年以降の記述に若干の誤表記や記載漏れも発見されている。したがって、本研究部会はいこれらの追加や修正の義務を負っているといわねばならない。

さらに、日本および世界のファッション産業が未曾有の岐路に立っている現在、「歴史を学ぶのではなく、歴史に学ぶことが重要である」「歴史は常に現代史である」という創部の視点に立ち戻って、ファッション産業史の研究を再び活性化させていく必要があると考えている。

本2022年度中には、研究会を再スタートさせたい。

- ・ファッションビジネス戦略研究部会 部会長／山村 貴敬 部会員／26名
- ・デジタルテキスタイル研究部会 代表／城田 衣（キヤノン株式会社） 部会員／13名

2021年度活動報告内容

#### <講演会等の開催>

本年度も前年度同様、オンライン（Zoomのウェビナー）による講演会（最新の情報発信）を2回、アカデミー（基礎勉強会）を1回実施した。開催概要、参加人数を以下に報告する。各会ともにQ&Aを通して活発な議論が行われた。

#### 1. オンライン講演会①

日 時：2021年7月9日(金)

講演会テーマ：「世界で加速度的に導入が進むデジタルテキスタイルの最新動向」

講 師：Advanced Consulting Partners 代表 伊藤 高廣 氏、  
セイコーエプソン(株) P事業戦略推進部 部長 藤森 信幸 氏  
クチュールデジタル(株) 代表取締役 森田 修史 氏  
Kornit Digital Japan K.K. リージョナルマネージャー  
須貝 謙一 氏

Keypoint Intelligence Industry Consultant – China Peter Pan 氏  
株式会社デジナ 取締役 居内 久勝 氏

参 加 者：98名（FB学会員を20名含む）

#### 2. オンラインアカデミー

日 時：2021年11月12日(金)

テ ー マ：「プリント物の堅牢性と安全性」

講 師：一般財団法人 カケンテストセンター グループリーダー  
相澤 亮太 氏

株式会社大力 代表 山村 北人 氏

参 加 者：57名（FB学会員を11名含む）

#### 3. オンライン講演会②

日 時：2022年3月25日(金)

講演会テーマ：「デジタルテキスタイル技術の最新動向」

講 師：法政大学 教授 岡本 慶子 氏  
東京大学大学院情報学環 准教授 笥 康明 氏

OpenFactory 代表 堀江 賢司  
株式会社リコー RGC IPS事業センター 室長  
池田 智洋 氏／西川 夏未 氏  
株式会社リコー IH第二開発室 グループリーダー  
水上 智 氏／吉田 崇裕 氏  
株式会社アステム 名古屋営業グループ 岩本 直久 氏  
ローランド・ベルガー パートナー 福田 稔 氏

参 加 者：100名（FB学会員 12名を含む）

### <JMBIAとの交流会>

JMBIA（一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会）

大判インクジェットプリンタ部会 環境・安全性分科会からの申し入れにより交流会を実施（3月17日）、相互の活動紹介と情報交換を行った。同分科会はテキスタイル用インクジェットプリンタを取り扱う業界団体の下部組織であり、テキスタイルに関連する環境・安全分野の調査と標準化の検討を行っている。デジタルテキスタイルの普及に向け大きな課題のひとつと考えられる環境・安全分野につき、今後も情報交換を進めて行くことを合意した。

### <来期にむけて>

来期も講演会等の開催を継続し、また業界団体との交流を深めることにより、デジタルテキスタイル業界の情報の流通や人の交流の場を生み出すことに務める。

#### ・ +10Y研究部会 部会長／篠崎 友亮 部会数／20人

研修会① FashionStudies®、ファッションビジネス学会との共催

テーマ：3Dボディデータと一人ひとりのための服・下着作りの可能性

登壇者：下山 廣 氏（株式会社ワコール 執行役員）

中里 唯馬（YUIMA NAKAZATO デザイナー）

大橋 めぐみ 氏（Apparel Play Office）

日 時：2021年5月14日(金)

会 場：オンライン

中里氏・ワコール両者の取組においてキーとなるのは、一人ひとりのボディであり、それに対して均一・大量生産ではないサービスをいかに作っていくかという点になります。このことを実現するには、採寸・計測が重要な要素であり、進化した採寸・計測技術は今後のサービスやクリエーションとどう結びついていくのだろうか。3Dボディデータと一人ひとりのための服・下着作りの可能性を探っていきました。

研修会② FashionStudies®、ファッションビジネス学会との共催

テーマ：ファッションにおける「アーカイブ」を学ぶ

講 師：今井 翔 氏（ファッションアーキビスト）

日 時：第1回5月26日(水) 第2回6月16日(水)

会 場：オンライン

海外のファッションアイコン達が着用したことで爆発的な人気となったデザイナーズブランドの「アーカイブ」。単なる古着と捉えられなくもないファッションにおける「アーカイブ」という概念について学んでいきました。

研修会③ FashionStudies®、ファッションビジネス学会との共催

テーマ：ファッション企業による産学連携のSDGs教育について

講師：池田 顕斗氏（デファクトスタンダード（ブランディア）SDGs推進担当）

山本 卓司氏（株式会社オンワード樫山 環境経営課長）

日時：2021年7月6日(火)

会場：オンライン

2社の産学連携のSDGs教育についてを取り上げました。2社から産学連携の事例を発表していただき、より良い産学連携を考えていきました。

研修会④ FashionStudies®、ファッションビジネス学会との共催

テーマ：百貨店の新たな取り組み

登壇者：橋 祐介氏（高島屋MD本部バイヤー）

島田 成一郎氏（松屋銀座 スタートアップ事業課長）

佐藤 亜都氏（フリーランス ウェブエディター／ライター）

日時：2021年9月28日(火)

会場：オンライン

コロナの影響を大きく受けている百貨店。そのような状況の中、百貨店の中から新しい取り組みにチャレンジしている方々からお話を聞きました。また、百貨店のこれからの展望などもお話していただきました。

研修会⑤ FashionStudies®、ファッションビジネス学会との共催

テーマ：ハンガー 環境への取り組み

登壇者：安齋 由理奈氏、抱井 広樹氏（日本コパック株式会社営業部）

原田 宏氏（株式会社山櫻セカンドブランド事業部）

日時：2021年11月24日(水)

会場：オンライン

ファッション業界でのリユース・リサイクルハンガーの取り組みはサステナブルが叫ばれるずっと前から行われてきました。流通ハンガーのリユース・リサイクルは、20年も前から続いているものもあります。ファッション業界で長年続いているリユース・リサイクルハンガーの事例と、環境に配慮して制作されたハンガーの事例をお話していただきました。

研修会⑥ FashionStudies®、ファッションビジネス学会との共催

テーマ：国際的な認証制度「B Corp（Bコープ）」を学ぶ

講師：岡 望美氏（B Leader）

日時：2021年12月13日(月)

会場：オンライン

国際的な認証制度「B Corp（Bコープ）」について、認証サポートを行っている岡望美さんを講師に迎えて、学びました。「B Corp（Bコープ）」とは？「B Corp（Bコープ）」認証企業の紹介、「B Corp（Bコープ）」認証企業になったらどんないいことがあるのか？から、認証を取るにはどうしたらいいか？認証取得のプロセスまで学んでいきました。

研修会⑦ FashionStudies®、ファッションビジネス学会との共催

テーマ：越境ECを学ぶ

講師：本間 哲平氏（BeeCruise 株式会社執行役員、グローバルコマースマーケティング担当）

日時：2022年1月26日(水)

会場：フィジカル オンライン

インターネットを使って海外に販路を広げる「越境EC」を学びました。海外対応しているファッション企業が生き残る時代となっている今、どのように海外へ情報発信をして販売していけばよいのかを学びました。

研修会⑧ FashionStudies®、ファッションビジネス学会との共催

テーマ：百貨店の新たな取り組み「売らない」店 「売りに行く」店

登壇者：比留間 由依氏、下澤 香南子氏（大丸松坂屋百貨店 明日見世PJ担当）  
加藤 雅洋氏（三越伊勢丹 ビジネスソリューション事業部）

日時：2022年2月10日(木)

会場：オンライン

百貨店で、新しい取り組みをされている方々からお話を聞く第2弾です。「売らない」店と「売りに行く」店の担当者からお話を聞きました。百貨店のこれからの展望もあわせてお話していただきました。

研修会⑨ FashionStudies®、ファッションビジネス学会との共催

テーマ：B Corp取得に向けて スキンケアブランド「mayunoWa」 B Corpへの道

登壇者：横山 結子氏（mayunoWa 代表）  
松岡 正晃氏（mayunoWa 化粧品製造責任）

ファシリテーター：岡 望美氏（B Leader）

日時：2022年3月25日(金)

会場：オンライン

なぜB Corp取得を目指そうと思ったか、そのプロセスを経てmayunoWaが得たものは何かなど、B Corpの取得を目指している企業の生の声を聞きました。

・ファッションロー研究部会 部会長／関 真也 部員数／19名

第4回研究会

日時：2021年8月19日(木) 18時00分～19時30分

場所：オンライン

テーマ：ファッションに関連する文化流用と差別表現

講師：家田 崇氏（南山大学 法学部 教授）

内容：ファッションに関連する文化流用と差別表現について、2010年代から2020年にかけて問題とされた事案を検証し、ファッションデザインやスタイリングがクリエイターの意図に反して文化流用や差別表現の問題を内包する原因・構造的要因を探究したうえ、この検討を踏まえて、ファッションビジネスにおいて、文化流用・差別表現問題の発生を未然に予防するとともに、仮に問題が指摘された場合についても適切に対応を心がけるような企業行動指針を考察した。



・ FashionGood研究部会 部会長／山口 大人

2021年度は下記のように社会との接点創りと仲間創りを目的にイベントを6度開催しました。また、ユニバーサルファッション協会と共催でオンライン研究会を3度開催しました。

■ イベント①

FashionGood lab.#002

「イギリスのサステナブル教育から見るファッションのESD」

【企画概要】

テ ー マ：「イギリスのサステナブル教育から見るファッションのESD」

登 壇 者：MUSKAAN 石坂 美由紀氏、一般社団法人SWITCH 佐座 槇苗氏

MUSKAAN：https://www.muskaan.jp/

一般社団法人SWITCH：https://www.switch.bio/

開 催 日：4月21日(水)

開催時間：19時～20時45分（伸びる場合は21時まで）

開催方法：オンライン（ZOOM）

会 費：無料&寄付

主 催：ファッションビジネス学会FashionGood研究部会

ファッションビジネス学会：http://www.fbsociety.com/

■ イベント②

FashionGood lab.

- MEET UP! #001 -

【企画概要】

FashionGood lab. - MEET UP! #001 -

開 催 日：4月24日(土)

開催時間：20時～22時00分（入退室自由）

開催方法：オンライン（ZOOM）

会 費：無料

主 催：ファッションビジネス学会FashionGood研究部会

【MEET UPの内容】

自己紹介、関心のあるサステナビリティについて、最近の話題などをざっくばらんに話し合い交流します。

■ イベント③

FashionGood lab.#003

「Textile Exchangeから学ぶ繊維のサステナビリティ」

【企画概要】

テ ー マ：「Textile Exchangeから学ぶ繊維のサステナビリティ」

登 壇 者：Textile Exchangeアンバサダー 稲垣 貢哉氏

司 会：FashionGood lab. 山口 大人

開 催 日：8月25日(水)

開場時間：18時50分

開催時間：19時～20時30分（伸びる場合は20時45分まで）

開催方法：オンライン（ZOOM：ミーティング形式）

主催：ファッションビジネス学会FashionGood研究部会

ファッションビジネス学会：<http://www.fbsociety.com/>

■ イベント④

FashionGood lab.#004

「GOTS認証から学ぶ オーガニックテキスタイルの世界基準」

【企画概要】

テーマ：「GOTS認証から学ぶ オーガニックテキスタイルの世界基準」

登壇者：GOTS地域代表 松本 フィオナ 氏

司会：FashionGood lab. 山口 大人

開催日：9月29日(水)

開場時間：19時30分

開催時間：19時30分～21時00分（伸びる場合は21時15分まで）

開催方法：オンライン（ZOOM：ミーティング形式）

主催：ファッションビジネス学会FashionGood研究部会

ファッションビジネス学会：<http://www.fbsociety.com/>

■ イベント⑤

FashionGood lab.#005

地域循環共生圏

－産業内ではなく地域から広げるサステナビリティ－

【企画概要】

テーマ：「地域循環共生圏 －産業内ではなく地域から広げるサステナビリティ－」

登壇者：環境省 環境計画課 企画調査室長 佐々木 真二郎 氏

司会：FashionGood lab. 山口 大人

開催希望日：11月9日(火)

開催時間：19時30分～21時（延長の場合21時15分）

開催方法：オンライン（ZOOM：ウェビナー形式）

主催：ファッションビジネス学会FashionGood研究部会

ファッションビジネス学会：<http://www.fbsociety.com/>

【会費】

無料

■ イベント⑥

FashionGood lab.

MEET UP! #002

【企画概要】

FashionGood lab. MEET UP!

開催日：12月22日(水)

開催時間：19時30分～22時30分（終了時間は想定です）

開催方法：オンライン（ZOOM：ミーティング形式）

主 催：ファッションビジネス学会FashionGood研究部会  
ファッションビジネス学会：http://www.fbsociety.com/

**【会 費】**

無料

■共催オンライン研究会①

ユニバーサルファッション協会 オンライン研究会

vol.1 UNIFAサステナブルトーク

共催：FashionGood lab.

**【テ ー マ】** 「サステナブルファッションから見るユニバーサルデザイン」

**【日 程】** 2021年2月27日(土) 14:00~14:50 レクチャー (休憩5分)

14:55~15:30 デイスクッション

**【スピーカー】** 山口 大人 ユニバーサルファッション協会理事

MASATO YAMAGUCHI DESIGN OFFICE 代表/デザイナー

ファッションビジネス学会 FashionGood 研究部会 部会長

一般社団法人 TSUNAGU 理事

文化ファッション大学院大学出身。在学中から国内外でリメイクブランドを展開。現在はリユースなどサステナブルファッションを専門にデザイン、商品企画、イベント企画、講師、企業のアドバイザー、学会での研究などマルチに活動の幅を広げている。

**【聞き手】** 柳原 美紗子 氏 ユニバーサルファッション協会理事・事務局長  
ファッション・ジャーナリスト

■共催オンライン研究会②

ユニバーサルファッション協会 オンライン研究会

vol.2 UNIFAサステナブルトーク 共催：FashionGood lab.

**【テ ー マ】** 「ファッションと気候変動」

**【日 程】** 2021年5月29日(土) 14:00~14:50 レクチャー (休憩5分)

14:55~15:30 デイスクッション

**【スピーカー】** 山口 大人 ユニバーサルファッション協会理事

MASATO YAMAGUCHI DESIGN OFFICE 代表/デザイナー

ファッションビジネス学会 FashionGood 研究部会 部会長

一般社団法人 TSUNAGU 理事

文化ファッション大学院大学出身。在学中から国内外でリメイクブランドを展開。現在はリユースなどサステナブルファッションを専門にデザイン、商品企画、イベント企画、講師、企業のアドバイザー、学会での研究などマルチに活動の幅を広げている。

**【聞き手】** 柳原 美紗子 氏 ユニバーサルファッション協会理事・事務局長  
ファッション・ジャーナリスト

**【会 場】** ZOOMによるオンラインでの開催となります。

■共催オンライン研究会③

オンライン研究会 vol.3 UNIFAサステナブルトーク

共催：FashionGood lab.

**【テ ー マ】** 「ファッションと労働」

**【日 程】** 2021年7月22日(木) 14:00~14:50 レクチャー（休憩5分）  
14:55~15:30 ディスカッション

**【スピーカー】** 山口 大人 ユニバーサルファッション協会理事  
MASATO YAMAGUCHI DESIGN OFFICE 代表／デザイナー  
ファッションビジネス学会 FashionGood 研究部会 部会長  
一般社団法人 TSUNAGU 理事

文化ファッション大学院大学出身。在学中から国内外でリメイクブランドを展開。現在はリユースなどサステナブルファッションを専門にデザイン、商品企画、イベント企画、講師、企業のアドバイザー、学会での研究などマルチに活動の幅を広げている。

**【聞 き 手】** 柳原 美紗子 氏 ユニバーサルファッション協会理事・事務局長

**【会 場】** ZOOMによるオンライン

【東日本支部】

支 部 長：中 村 賢二郎  
運 営 委 員 長：北 折 貴 子  
事 務 局：守 屋 知 江

1 会員数 個人会員94名 学生会員0名 法人賛助会員2社

2 2021年度の主な活動報告

(1)第20回東日本支部定期総会並びに講演会及び交流会

日 時：2021年5月29日(土) 13:00～15:00

場 所：学校法人杉野学園 第二校舎 小ホール

①定期総会

第1号議案 2020年度 事業報告並びに決算承認の件

第2号議案 2021年度 事業計画並びに予算承認の件

第3号議案 役員改選

②講演会

講 演：窪 浩志 氏 株式会社ビームス 取締役開発事業本部本部長

テーマ：「BEAMSのPB戦略とモノ創り」

(2)ファッションビジネス学会2021全国大会

日 時：2021年11月20日(土)

場 所：本部 学校法人文化学園 文化学園大学 オンライン開催

東日本支部より 口頭研究発表6報 ポスタープレゼンテーション1報  
発表

(3)令和3年度 合同研究発表会・講演会及び交流会

日 時：2022年2月26日(土) 13:00～16:00

場 所：学校法人杉野学園 第二校舎 小ホール

①講演会

講 演：稲葉 行平 氏

株式会社七彩 取締役専務執行役員 営業本部長兼東京支店支店長

演 題：「マネキンが見つめる進化するファッションビジネスの世界  
～過去から未来～」

②研究発表 1報

講 演：五月女 由紀子 杉野服飾大学 教授

テーマ：「デジタル社会実装の国家におけるリアル店舗の発展  
－中国リテールと消費者に関する調査分析から－」

③交流会

場 所：学校法人杉野学園 本校舎地下食堂

(4)2020年度 講演論文集No.15発行（2021年5月29日）

**【関西支部】**

支 部 長：森 慈 郎

事 務 長：上 原 さと子

- 1 会員数 個人会員73名 学生会員1名 法人賛助会員6社
  
- 2 2021年度の主な活動報告
  - (1)関西支部役員会  
2021年6月21日(月) 配信（感染防止対策により書面決議）
    - ①定例役員会  
1号議案 2020年度 関西支部活動報告・収支決算報告  
2号議案 2021年度 関西支部活動計画
  
  - (2)ファッションビジネス学会2021全国大会  
2021年11月20日(土) リモート開催  
関西支部研究発表 口頭発表6報 ポスタープレゼンテーション1報
  
  - (3)関西支部役員会  
2021年3月28日(月) 配信（感染防止対策により書面決議）
    - ①定例役員会  
1号議案 2021年度 関西支部活動報告  
2号議案 2021年度 補正予算  
3号議案 2021年度 研究部会の活動報告  
4号議案 2022年度 関西支部活動計画  
5号議案 2022年度 収支予算  
6号議案 2022年度 研究部会の活動計画  
7号議案 2022年度 役員について
  
  - (4)研究発表会（関西支部HPでのWEB発表形式で実施）  
掲載期間：2021年3月2日(水)～3月31日(木)
    - ①研究発表 2報

**【西日本支部】**

支 部 長：坂 根 康 秀

事 務 局 長：杉 森 孝

1 会員数 個人会員52名 学生会員 0 名 法人賛助会員 0 社

2 2021年度の主な活動報告

(1)2021年度 6 月19日(土) 於：香蘭女子短期大学（オンライン開催）

①2021年度事業計画案

1 号議案 2020年度事業報告・収支決算報告・監査報告

2 号議案 2020年度会費納入状況・会員異動状況

3 号議案 2021年度事業計画案・予算案・役員選出

②特別講演会

テーマ：「未来にエールを～子供たちを取り巻く社会課題解決への  
制服メーカーの新たな挑戦～」

講 師：菅公学生服株式会社 取締役 兼  
カンコーマナボネクト株式会社 代表取締役社長  
曾山 紀浩 氏

(2)2021ファッションビジネス学会全国大会（本部主催） 参加

日時 2021年11月20日(土) 於：文化学園大学（オンライン開催）

①オンラインシンポジウム

②研究発表：4 報

③ポスターセッション：3 報

(3)主催事業

日時 2021年11月13日(土) 於：香蘭女子短期大学（オンライン開催）

講 師 和泉 信生 氏  
シタテル株式会社 情報工学博士

テーマ 「IT時代の服作りと今後のファッションビジネスについて」

(4)共催事業

・香蘭女子短期大学 令和 3 年度 夏季公開講座（オンライン開催）

日時 2021年 7 月26日(月)10時～ 8 月20日(金)17時

講 師 角谷 由加里（香蘭女子短期大学 助教）

テーマ 「動画を活用した被服実習授業～ブラウス製作～」

・香蘭ファッション専門学校 夏期講習会

日時 2021年 8 月28日(土)

講座A コース【パターンメイキングテクニク】

講 師：野田部 寛之

（香蘭ファッションデザイン専門学校ファッションテクニカル科主任）

テーマ 「ダーツのロジック講座」

・香蘭ファッション専門学校 夏期講習会

日時 2021年8月28日(土)

講座Bコース【誰でも描ける！伝えるためのイラストレーション】

講師：水野 雅己 ファッション画家

・香蘭ファッション専門学校 夏期講習会

日時 2021年7月2日(金)

講座Cコース

【MD野仕事を本質を理解しよう！マーチャンダイジングのキホンのキ】

講師：佐藤 正巨氏 (株)エムズ商品企画 代表取締役



## 2021年度 収支決算報告書

(2021年4月1日～2022年3月31日)

単位：円

科 目	金 額
<b>I. 収入の部</b>	
会 費 収 入	4,061,000
研 究 会 ・ 講 習 会 収 入	0
論 文 誌 投 稿 料	160,000
雑 収 入	8,861
全 国 大 会 収 入	5,000
支 部 本 部 繰 入 金	587,417
<b>当期収入合計 (A)</b>	<b>4,822,278</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>12,639,930</b>
<b>収入合計 (B)</b>	<b>17,462,208</b>
<b>II. 支出の部</b>	
<b>管 理 費</b>	
本 部 ・ 支 部 分 担 費	662,417
旅 費 交 通 費	36,931
通 信 費	114,323
印 刷 費	150,008
事 務 用 品 費	207,314
雑 給 与	1,399,217
雑 費	169,368
<b>管理費合計</b>	<b>2,739,578</b>
<b>事 業 費</b>	
学 会 誌 ・ 論 文 誌 発 行	591,248
全 国 大 会 費	340,700
研 究 部 会 費	73,900
総 会 費	194,180
講 演 会 費	113,411
会 議 費	38,488
企 画 運 営 費	656,823
賛 助 会 費	50,000
書 籍 費	9,187
<b>事業費合計</b>	<b>2,067,937</b>
<b>支出の部合計 (C)</b>	<b>4,807,515</b>
<b>当期収支差額 (A)－(C)</b>	<b>14,763</b>
<b>繰越収支差額 (B)－(C)</b>	<b>12,654,693</b>

## 財産目録（本部・支部）

(2022年3月31日現在)

単位：円

科 目	現 金	普通預金	郵便振替貯金	合 計
本 部	64,195	277,774	10,216,458	10,558,427
東 日 本	7,114	362,549	1,460,900	1,830,563
関 西	0	0	0	0
西 日 本	0	265,703	0	265,703
<b>合 計</b>	<b>71,309</b>	<b>906,026</b>	<b>11,677,358</b>	<b>12,654,693</b>

## 貸 借 対 照 表

(2022年3月31日現在)

単位：円

資産の部		負債の部	
現 金	71,309		0
普通預金	906,026	<b>資本の部</b>	
郵便振替貯金	11,677,358	繰越余剰金	12,654,693
仮払金	0	(当期余剰金)	
<b>資 産 の 部</b>	<b>12,654,693</b>	<b>負債・資本の部</b>	<b>12,654,693</b>

## 監査報告

ファッションビジネス学会定款第40条の規定により2021年度の決算報告について、帳簿・預金通帳・銀行残高証明書と照合の結果、期間の収支、期末における貸借対照表ともに適正に表示されていることを認めます

2022年5月1日

監事 雑賀 透



## 第2号議案

### 2022年度 事業計画と予算承認の件

(2022年4月1日～2023年3月31日)

## 事業計画案

### 1 2022年度ファッションビジネス学会全国大会の件

2022年度ファッションビジネス学会全国大会は、東日本支部主催として提案され、以下の予定で実施する。

開催予定 2022年11月

### 2 論文誌発行

デジタル版への切替にあたり、フィジカル版最終号のVol.27を2022年6月初旬に発行予定

### 3 支部研究発表会及び研究会活動の充実と活性化

### 4 2023年度理事会・総会

2023年度理事会・総会・特別講演会を2023年5月中旬に開催予定

### 5 各支部の活動計画（支部主催を抜粋）

#### 【東日本支部】

- (1)第21回ファッションビジネス学会東日本支部定期総会並びに講演会及び交流会  
2022年5月21日(土)
- (2)ファッションビジネス学会 2022全国大会 2022年11月 於：東日本支部
- (3)2022年度 合同研究発表会・講演会及び交流会 2023年2月25日(土)
- (4)2021年度 講演論文集 NO.16発行 定期総会開催時に配布
- (5)東日本支部運営委員会  
定期総会開催日：2022年5月21日(土)  
合同研究発表会開催日：2023年2月25日(土)

#### 【関西支部】

- (1)関西支部役員会 2022年6月20日(月)開催予定 於：上田安子服飾専門学校
- (2)ファッションビジネス学会 2022全国大会参加予定
- (3)関西支部役員会 2023年2月開催予定 於：大阪文化服装学院
- (4)関西支部研究発表会 2023年2月開催予定 於：大阪文化服装学院  
第一部 基調講演 第二部 研究発表会 第三部 交流会

**【西日本支部】**

- (1)2022年度西日本支部定例総会・特別講演会  
2022年6月18日(土)(案) 於：香蘭女子短期大学
- (2)ファッションビジネス学会 2022全国大会参加予定
- (3)2022年度 主催事業 現在企画中
- (4)2022年度 共催事業 現在企画中

## 2022年度 予算(案)

(2022年4月1日～2023年3月31日)

単位：円

科 目	予 算
<b>I. 収 入 の 部</b>	
会 費 収 入	4,000,000
研 究 会 ・ 講 習 会 収 入	30,000
論 文 誌 投 稿 料	150,000
雑 収 入	20,000
全 国 大 会 収 入	400,000
支 部 本 部 繰 入 金	500,000
基 金 か ら 繰 入 金	1,000,000
<b>収 入 計</b>	<b>6,100,000</b>
前 期 繰 越 金	11,654,693
<b>収 入 合 計</b>	<b>17,754,693</b>
<b>II. 支 出 の 部</b>	
<b>管 理 費</b>	
本 部 ・ 支 部 分 担 金	500,000
旅 費 交 通 費	50,000
通 信 費	150,000
印 刷 費	150,000
事 務 用 品 費	150,000
雑 給 与	1,500,000
雑 費	50,000
<b>管 理 費 合 計</b>	<b>2,550,000</b>
<b>事 業 費</b>	
論 文 誌 発 行	1,200,000
全 国 大 会 経 費	800,000
研 究 部 会 費	200,000
総 会 費 (含支部総会)	200,000
講 演 会 費	150,000
会 議 費	50,000
企 画 運 営 費	800,000
賛 助 会 費	50,000
書 籍 費	10,000
予 備 費	50,000
<b>事 業 費 合 計</b>	<b>3,510,000</b>
<b>支 出 合 計</b>	<b>6,060,000</b>
<b>収 支 差 額</b>	<b>40,000</b>
<b>次 期 繰 越 金</b>	<b>11,744,693</b>

### 第3号議案

## 2021年度活性化活動報告と2022年度計画の件

昨年度に承認された活性化5ヵ年計画の中で編成された以下の5委員会における活動報告と計画について以下のとおり報告する。

◇総務委員会

◇論文審査委員会

◇研究委員会

◇国際交流委員会

◇企画広報委員会

イベント企画分科会

情報誌・図書編集分科会 \*2022年度より改名

ホームページ・プレス分科会 \*2022年度より各分科会を統合

その他の計画

活性化における2030年に向けた提言、および学会運営について総合運営会議等において検討する。

## 2021 総務委員会 活動報告

組織 計6名 \*順不同・敬称略

メンバー	氏名	支部	理事/会員	所属
委員長	櫛下町 伸一	本部	理事	文化ファッション大学院大学
事務長	市川 智美	本部	会員	文化ファッション大学院大学
委員	増田 大助	本部	理事	文化服装学院非常勤
委員	鈴木 康久	東日本	会員	杉野服飾大学
委員	播岡 充	関西	会員	大阪文化服装学院
委員	杉森 孝	西日本	会員	香蘭女子短期大学

### 活動報告

目 標	活性化の一環で、本部事務局と理事会、総合運営会議、委員会／分科会と連携して学会をアピール、5カ年で会員(正会員・学生会員・賛助会員)の倍増を目指す
結 果	<p>年間で3回の委員会を開催（ZOOM）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 会員の増強と次年度予定について検討</li> <li>■ 前提として</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時代を捉えた学会運営のための新たなパワーとなる実践的人材の確保と新しさを打ち出す雰囲気作りを行う</li> <li>・ ファッション系に限らず、他学会の運営について調査し、会員獲得に向けたメリットの創出などの参考とする</li> </ul>
次年度 予 定	<p>総合運営会議において検討、各委員会と連携して賛助会員、教員会員、学生会員の獲得を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 賛助会員の獲得のため</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファッションビジネスを幅広く捉え、その範囲で成長しているスタートアップ企業のリストアップとそこへの効率の良いアプローチを検討</li> <li>・ 勧誘のし易さを考慮して賛助会費の低減（3万円ほど）を検討、それと共に会費とは別途、共同研究などによる企業や政府からの協賛金や助成金などの獲得を検討</li> <li>・ 賛助会員のPRとしてHPに賛助企業のURLのアップを検討</li> <li>■ 全体的な会員獲得のため</li> <li>・ 現状の会員のメリットを精査、例としての実績（研究活動・論文・アワード・共同研究など）を定期的にHPや業界誌など関連メディアから発進PR、学会の露出度（ロゴを含めて）の向上を検討</li> <li>・ 企業や教員、学生など会員間のネットワーク作りをサポートするため、名刺交換会的／交流会的な要素を既存のイベントに取り入れて動員を促すことを検討</li> <li>・ パイを広げるために一般大学の教員／学生に対して会員を通じた口コミ戦略や効率の良いアプローチを検討</li> <li>・ Z世代である学生会員や学生、若手会員に向けたSNSアカウントを立ち上げて交流を促進、アンケートなどを含めてそこでの情報（取扱いに注意）の活用（賛助会員へのメリットの創出など）を検討</li> </ul>

以上



## 2021 論文審査委員会 活動報告

組織 計4名 \*順不同・敬称略

メンバー	氏名	支部	理事/会員	所属
委員長	砂長谷 由香	本部	理事	文化学園大学
事務長	井口 彰子	本部	会員	文化学園大学
委員	熊谷 伸子	本部	会員	文化学園大学
Web 相談役	安田 和史	本部	会員	株式会社スズキアンドアソシエイツ 法政大学講師

### 活動報告

目 標	学会活性化の一環で、これまでフィジカル版であった論文を2022年度からデジタル版に切り替えて運用、それによって論文投稿の促進とコスト削減をはかる
結 果	<p>2022年度からのデジタル版の運用に向けて以下について委員会で活動を行った</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 査読担当者の拡充・強化のため、学会員への「研究キーワード」についての調査アンケート（Googleフォーム作成したアンケートを一斉メール通知）を会員453名に実施、183名より回答を得て（回答率40%）、その中から査読者を選出した</li> <li>・ 投稿規定と投稿料／掲載料の見直しのため、他学会の投稿規定を調査し、調査結果を参考に次号の投稿時より投稿料は無料とすることを理事会にて承認頂いた</li> <li>・ デジタル版の新投稿規定案を検討し、理事会から総合運営会議にはかり、年度末までに投稿方法（投稿フォーム 他など）と合わせて投稿規定改訂版としてまとめた</li> <li>・ 並行してフィジカル版最終号となる2021年度vol.27号の発行に向けた査読・編集作業を進めた</li> </ul> <p>投稿数は論文7報、研究ノート1報であったが、査読の結果、論文3報、研究ノート3報、取り下げ2報となった</p>
次年度 予 定	<p>4月のフィジカル版最終号の発行・発送時に、最終号と会員への一斉メール、学会HPで2022年度からのデジタル版の新たな投稿規定・投稿／運用方法について発表・告知、10月末の投稿</p> <p>締め切りから査読・編集、年度末3月のデジタル版初のvol.28号の発信を目指す</p>

以上

## 2021 研究委員会 活動報告

組織 計6名 \*順不同・敬称略

メンバー	氏名	支部	理事/会員	所属
委員長	山本 ひとみ	関西	理事	神戸国際大学
事務長	鶴 鉄雄	関西	会員	上田学園
委員	首藤 眞一	本部	会員	文化ファッション大学院大学
委員	五月女 由紀子	東日本	理事	杉野服飾大学
委員	松岡 依里子	本部	理事	国際ファッション専門職大学
委員	岡田 絵梨奈	西日本	会員	香蘭短期大学

### 活動報告

目 標	学会活性化の見地から、本委員会は研究ファーストをテーマに、英国などの「ファッションスクール」の制度的な特徴を理解し、日本の専門職教育の体系化に役立てることに重点を置きながら日本の文献と海外の文献研究と、さらにファッション企業の事例研究を組み合わせ実施していく。
結 果	<p>以下について、研究会を兼ねた委員会を計8回開催（zoom）し、検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学会が職業教育という視点で見ると、一貫した教育体系になっていなく、要因が欧米のような「ファッションに特化した社会人ドクター（博士）制度」がないことについて。</li> <li>・ファッション／アパレル業界でキャリアを重ねた社会人などが実務家教員を目指すための「博論（博士論文）」を上梓する場がないこと。社会人が「博論」を書こうと思うと、現状では非ファッション系の博士課程で学ばざるを得ないことについて。</li> <li>・非ファッション・アパレル系の博士課程ではファッション・アパレルの実務経験の価値を認めていないことについて。</li> <li>・学術会議や文科省の「学術領域」ではファッションビジネスという研究分野の分類コードがなく「家政学」の領域に組み込まれており、そのため学術研究として「ファッションビジネス学」が認知されていないことについて。</li> <li>・本学会を構成する教育機関の多くは、「家政系」もしくは「服飾系」の専門学校、大学、短大が主体であり、ファッションビジネス系の「博士学位」を取得する教員が少ないことについて。</li> <li>・グローバル化と持続成長を担う教育機関の一本化とそのカリキュラムについて。</li> <li>・2022活動予定について。</li> </ul>
次年度 予 定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度と同様に研究ファーストをテーマに活動していく。</li> <li>・4月から9月にかけて6回の委員会を開催予定。</li> </ul>

以上

## 2021 国際交流委員会 活動結果

組織 計9名 \*順不同・敬称略

メンバー	氏名	支部	理事/会員	所属
委員長	岡本 義行	本部	副会長/理事	法政大学
事務長	*改選 未定			
委員	上田 哲也	西日本	理事	上田学園
委員	梶原 莞爾	本部	理事	信州大学
委員	中村 茂	本部	理事	元神戸松蔭女子学院大学
委員	土屋 淳二	本部	理事	早稲田大学
委員	松岡 依里子	本部	理事	国際ファッション専門職大学
委員	五月女 由紀子	東日本	理事	杉野服飾大学
委員	Francesco Formiconi	本部	会員	ディーゼルジャパン
委員	菊田 琢也	本部	会員	昭和女子大学

### 活動報告

目 標	ファッションおよびファッションビジネスに関係のある海外および国内の学会・学者・書籍・論文・文化・価値観など様々な情報の収集、発信、交流に務めることで、学会の再構築、活性化に寄与する
結 果	<p>年間で3回の委員会を開催（zoom）し、どのような国際交流とするかについて検討した</p> <p><b>検討内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流の現状を調べてみる必要があるのではないか</li> <li>・範囲を広げないで絞った調査が必要ではないか 例えば、北欧のサステイナブルについてなど</li> <li>・国別にテーマを設けた調査をしてはどうか 例えば、欧州であれば物作り、米国であればリテール、中国であればデジタルなど</li> <li>・未来を想定してインドやアフリカとの交流を検討する必要があるのではないか</li> <li>・交流研究は個人に帰属するため、問題意識などをふまえた会員各自の関心のあることについて聞いてみてはどうか</li> </ul> <p>* 2月末に一斉メールにてアンケートを実施</p>
次年度 予 定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度からスタートするHPコンテンツのGAKKAIPRESS（年2回学会情報発信）において、委員会としての情報発信と反応の確認について検討する</li> </ul> <p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施したアンケート結果をもとに、さらに具体的で専門的な聞き取りアンケートを行い、それもとにした調査／研究情報</li> <li>・海外のファッション・アパレルに関して企業から提供された情報</li> </ul>

以上

## 2021 企画広報委員会 イベント企画分科会 活動報告

組織 計7名 \*順不同・敬称略

メンバー	氏名	支部	理事/会員	所属
委員長	福永 成明	東日本	理事	ファッションリンクス
分科会長	篠崎 友亮	本部	理事	FashionStudies®
事務長	内海 里香	本部	理事	文化ファッション大学院大学
委員	山岡 真理	本部	会員	文化ファッション大学院大学
委員	山口 大人	本部	会員	MASATOYAMAGUCHI DESIGNOFFICE
委員	関 真也	本部	会員	弁護士／関真也 法律事務所
委員	平井 秀樹	本部	会員	国際ファッション専門職大学

### 活動報告

目 標	活性化の一環でイベントを企画運営
結 果	委員会を重ねる中で、学生／若い会員に向けたアワード（FB企画コンテスト）と産地研修について、次年度に実施するイベントとして検討した。
次年度 予 定	・夏休み8月にアワードを実施予定。 ・夏休み8月と冬休み12月の年間計2回、産地研修を実施予定。

以上

## 2021 企画広報委員会 情報誌・図書編集分科会 活動報告

組織 計6名 \*順不同・敬称略

メンバー	氏名	支部	理事/会員	所属
委員長	福永 成明	東日本	理事	ファッションリンクス
分科会長	福永 成明	東日本	理事	ファッションリンクス
事務長	*改選 未定			
委員	増田 大助	本部	理事	文化服装学院非常勤
委員	依田 素味	本部	理事	日本経済大学
委員	安田 和史	本部	会員	株式会社スズキアンドアソシエイツ 法政大学講師
委員	藤嶋 陽子	本部	会員	明治大学商学部特任講師 東京大学学際情報学府博士課程

### 活動報告

目 標	活性化の一環として、情報誌を論文誌と棲み分けしたうえで、学会関連の研究情報としてHPのコンテンツからデジタル発信、それによって学会をアピール、研究や入会を促進する。
結 果	委員会（zoom）を重ね、以下について検討、実施した。 ・HP上のコンテンツ「GAKKAIPRESS」において学会情報を22年度より年2回（9月・3月）デジタル発信することを検討。 ・3/7にHP上のコンテンツ「GAKKAIPRESS」からZERO号（テーマ：2021全国大会シンポジウム）を音源起こしから編集・レイアウトして発信、実施した。
次年度 予 定	・年2回発行（9月・3月）の内容（総会や全国大会の基調講演やシンポジウム、会員の研究実績、寄稿論文、調査資料など）と費用について検討、準備、発信していく。 ・学会関連の情報を取り扱っていくため、分科会名を情報誌・図書編集分科会と改名する。 ・組織の改編として分科会長と事務長を改選、そのうえで全国レベルでの編成と発信する情報の研究性を考慮し、コンテンツの企画については研究委員会と連携していくことを検討する。

以上

## 2021 企画広報委員会 ホームページ・プレス分科会 活動報告

組織 計5名 \*順不同・敬称略

メンバー	氏名	支部	理事/会員	所属
委員長	福永 成明	東日本	理事	ファッションリンクス
分科会長	依田 素味	本部	理事	日本経済大学
事務長	古田 賢	本部	会員	通販会社/立命館大学大学院
委員	増田 大助	本部	理事	文化服装学院非常勤
相談役	土居 充	本部	会員	伊藤忠インタラクティブ株式会社

### 活動報告

目 標	活性化の一環、デジタル化において学会ホームページを活用、PRを強化し、研究促進と会員増強を目指す。
結 果	<p><b>ホームページ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月にリニューアル、結果として「見やすく・わかりやすくなった」との評価を得た。</li> <li>・リニューアル後は会員への案内通知を一斉メールと同時にHPトップのニュース欄にアップ、案内通知とアピールを強化した。</li> </ul> <p><b>プレス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月に開催した全国大会のPRと参加者増員を目的に、業界メディアや新規の学校等にプレスリリースを送付、合わせて支部関連の専門学校へは学生動員をお願いした。結果としては業界メディアでは織研新聞に結果が掲載されたが新規の学校からの応募はなかった。</li> <li>・イベントや研究会など年間で会員への一斉メール通知を21本行った。</li> </ul>
次年度 予 定	<p>ホームページ編集分科会とプレス編集分科会を統合し、ホームページ・プレス分科会と改名。</p> <p><b>ホームページ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに活用についてブラッシュアップする。</li> <li>・会員への一斉メールの見落としに備えて「一斉メールについてのお問い合わせ」欄を新設する。</li> <li>・「ファッション産業史年表」のブラッシュアップを研究部会に依頼し、年表に付随した時代のキーワードの解説を動画を含めて閲覧できるよう検討する。</li> <li>・「検索」コンテンツ欄の内容については、グーグル検索で済むことを考慮して削除を検討、新たにリンク情報として何をリンクすべきかを検討する。</li> <li>・DX/メタバースの試みとして、VR空間コンテンツの立ち上げと、交流やネットワーク作りの促進について検討する。</li> <li>・各支部にファシリテーターを起用したリアルな情報発信・交流、提唱などを具現化するラジオ的トークコンテンツの立ち上げを検討する</li> </ul> <p><b>プレス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の業界メディアだけではなく、急成長のWebメディアやインフルエンサー、口コミなどを活用したPRによる動員や入会の促進を検討する。</li> </ul>

以上

## 第4号議案

### 運営規約の一部改正について

運営内規の部分的改訂を以下のとおりとする。

## ファッションビジネス学会運営内規

### 第4章 運営4委員会と研究委員会

#### 第8条 運営4委員会と傘下分科会

3. 企画・広報委員会は、イベント企画、情報誌・図書・ホームページの企画・編集、プレス対応を担当する。
  - 1) 傘下にイベント企画分科会、情報誌・図書編集分科会、ホームページ・プレス分科会を設けて管掌する。
  - 2) イベント分科会は、各種の講演会・シンポジウム、正会員・学生会員対象の講習会・見学会・研究実績表彰（アワード）などを企画し、理事会または総合運営会議の承認を得たあと準備・実施にあたる。
  - 3) 情報誌・図書編集分科会は、情報誌（Webを含む）の企画・編集を主要な業務とし、本会が制作・受託または監修する書籍（テキスト、辞典など）の企画・編集を担当することもある。
  - 4) ホームページ・プレス分科会は、本会が実施する事業などについてホームページを通じて会員および外部に広報する業務、および一般媒体・専門誌を対象とするプレスリリースの制作・発信、記者会見、本会の事業の写真撮影などを担当する。

第5号議案

役員並びに名誉会員名簿

2022年5月1日現在（敬称略）

会 長	濱 田 勝 宏	文化学園理事長 文化学園大学学長 文化ファッション大学院大学学長
副 会 長	尾 原 蓉 子 岡 本 義 行	WEF創設者 名誉会長 元IFIファッションビジネススクール学長 法政大学特任教授 博士(経済学)
理 事	依 田 素 味 上 田 哲 也 内 海 里 香 梶 原 莞 爾 北 折 貴 子 櫛下町 伸 一 坂 根 康 秀 佐々木 幸 二 佐 藤 正 樹 篠 崎 友 亮 砂長谷 由 香 五月女 由紀子 田 中 和 安 土 屋 淳 二 中 村 賢二郎 中 村 茂 萩 平 勉 早 川 雅 明 林 泉 福 永 成 明 増 田 大 助 松 岡 依里子 見 寺 貞 子 森 慈 郎 山 本 ひとみ	日本経済大学大学院 経営学研究科 教授 博士(被服環境学) 上田学園理事長 文化ファッション大学院大学 ファッションビジネス研究科 教授 信州大学 繊維学部コーディネータ、リサーチフェロー AREC 産学連携コーディネータ 杉野服飾大学 学部長 文化ファッション大学院大学 研究科長 山内学園理事長 香蘭女子短期大学学長 農学博士 ファッションビジネス学会西日本支部長 織研新聞社 代表取締役社長 佐藤繊維株式会社 代表取締役社長 FashionStudies®主宰 文化学園大学 教授 杉野服飾大学 教授 株式会社ユナイテッドアローズ 執行役員 CMO(チーフマーチャングダイジングオフィサー) 早稲田大学 文学学術院 教授 杉野学園理事長 杉野服飾大学学長 ファッションビジネス学会東日本支部長 元神戸松蔭女子学院大学教授・ 文化ファッション研究機構共同研究員 一般財団法人ファッション産業人材育成機構 IFIビジネススクール 理事長 成安造形大学名誉教授 文化学園大学名誉教授 ファッションビジネス学会 専務理事 ファッションリンクス代表 ファッションビジネス学会 常務理事・事務局長 文化服装学院非常勤講師 国際ファッション専門職大学 ファッションビジネス学科 教授 神戸芸術工科大学 芸術工学部 ファッションデザイン学科 教授 大阪文化服装学院会長 ファッションビジネス学会関西支部長 神戸国際大学 経済学部 教授
監 事	雑 賀 透	株式会社島精機製作所 営業統括部長
名誉会員	内 田 盛 也 小山田 道 弥 馬 場 彰 二 丸 雄 策	株式会社モリエイ代表取締役会長 工学博士 ファッション総研代表 元日本ファッション協会理事長 元オンワードホールディングス名誉顧問 初代ファッションビジネス学会事務局長



## ファッションビジネス学会 会員数の推移

(2022年3月31日現在)

	個人会員	学生会員	計	法人賛助会員
2012年度	493名	29名	522名	19社
2013年度	466名	25名	491名	20社
2014年度	463名	23名	486名	20社
2015年度	463名	28名	491名	21社
2016年度	446名	24名	470名	20社
2017年度	455名	15名	470名	19社
2018年度	447名	17名	464名	19社
2019年度	449名	18名	467名	17社
2020年度	462名	23名	485名	15社
2021年度	454名	29名	483名	15社

(年度末時点の会員数)

### 【2021年度内訳】

	個人会員	学生会員	計	法人賛助会員
本 部	235名	28名	263名	7社
東 日 本	94名	0名	94名	2社
関 西	73名	1名	74名	6社
西 日 本	52名	0名	52名	0社
計	454名	29名	483名	15社



The Japan Society for  
Fashion Business

## ファッションビジネス学会

- 本部 〒151-8523  
東京都渋谷区代々木3-22-1 文化学園大学内  
TEL・FAX (03) 3299-2378  
MAIL : fbgakkai-honbu@bunka.ac.jp
- 
- 東日本支部 〒141-8652  
東京都品川区上大崎4-6-19 杉野服飾大学内  
TEL (03) 3491-8151 FAX (03) 3491-2605  
MAIL : fbeast@sugino.ac.jp
- 関西支部 〒532-0005  
大阪府大阪市淀川区三国本町3-35-8 大阪文化服装学院内  
TEL (06) 6350-0317 FAX (06) 7508-3152  
MAIL : info@kfcc-jp.com
- 西日本支部 〒811-1311  
福岡県福岡市南区横手1-2-1 香蘭女子短期大学内  
TEL (092) 581-1538 FAX (092) 581-2200  
MAIL : fb-nishi@g.koran.ac.jp